



さかぐち
坂口みろさん

●プロフィール

29歳。静岡県静岡市生まれ。東京環境工科専門学校を卒業後、屋久島環境文化財団に就職。3年間の任期の後、対馬野生生物保護センターに就職。地域社会作りや環境教育に携わる。任期満了後は一般社団法人MITに勤務。自然と人とのつなぎ役、島案内人として活動。昨年11月に結婚。夫と2人暮らし。来年2月に出産予定のため退職。佐護在住。

○対馬との出会いは？

初めて対馬に来たのは学生時代。野生生物保護センターでの実習のためでした。結局、卒業後の進路は対馬ではなく屋久島での仕事を選びました。その屋久島での任期も満了が近づいていた時、福岡市で開催された「生物多様性EXPO」に参加し、対馬から参加された方々に出会いました。野生生物保護センターで、環境教育などの仕事をする人を募集しているとお聞きし早速応募。本当にタイミング良くご縁をいただきました。

○ご主人との出会いも対馬とお聞きしました。

ええ(笑)。彼は福岡出身で、対馬には転勤で来ていました。はじめは対馬の面白さが分からず、楽しめないでいたようですが、ツシマヤマネコ応援団の活動や野鳥観察など楽しみを見つけ、すっかり対馬のとりこに。よく保護センターにも来ていたようで、彼との最初の出会いは保護センター。出勤初日のことでした。「変わった鳥がいる」として報告に来てたんです。これもまた不思議な縁ですね。

○対馬に住んでみての印象は？

地域性もあると思うのですが、適度に放っておいてもくれるし、適度にかまってもくれるお付き合いの距離感が、私には

心地よいです。裏庭で家庭菜園を始めた時には、近所の方が余った苗をくれたり、いつの間にか苗を植えてくれていたり。手入れや草取りもしてくれて、大変ありがたい思いもしました。ご近所でお祝い事があつた時にはおすそ分けを下さいますし、帰宅すると玄関に大きな大根がゴロンと横たわつてて。いまだにどなたがくださったか分からないんです(笑)。

○妊娠以降、感じることは？

妊娠、出産という過程を経験する体になつて気づく点があるというあります。唯一の産科はいづらは病院。妊娠初期はつわりがひどく、2時間の道のりはきつかったですし、出産間際のことを考えると不安に思うことも。「対馬で人を増やす」という点で、医療機関の不足はネックになるのでは、と思いました。またパパママ教室などの実施も下地区に多く、初めて出産・子育てをする夫婦にとって、近くに相談できる人がいないのも残念です。でも、子育ての環境としては、近所づきあいがあるがよいこの地が気に入っていますから生まれてくる子ども共々手探りで生活していきたいです。

○今後の抱負は？

対馬のPRをする活動の際、実は対馬について話せる人が少ないということに気づきました。地元の人にも「こんな何も無いところによく来たね」なんて言われたことも。でも、外から来た私たちにとっては、対馬にはすごいものがたくさんある。対馬に「当たり前前にあるもの」は実は「誇れるもの」だということを気づいてもらえるきっかけを作り、それを伝えることをみんなと一緒にやっていきたいです。

蜂蜜、ツシマヤマネコ、歴史、国境の島。魚も米も美味しい。どれもすごい特徴があつて絞りきれないほど。なのに知名度が低い：対馬には島ならではの弱さと強さがあります。有名な島は売り込み方の形がもう決まっているけれど、対馬はこれからただ旅行するのではなく、地元の人と仲良くなつて知る対馬の魅力を味わってもらえる仕掛けがほしいですし、そういう場地元の名物おじさん、おばさんが活躍できるといいですね。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は上原町伊奈にお住まいの吉野元さんです。お楽しみに。